

いま歩きはじめた小さな奉仕の心

白根高校・家庭クラブのボランティア活動



「子供たちに指人形劇を見せてあげよう」と、指人形の製作に励むクラブ員



役員会で、ボランティア活動の計画を話し合う

白根高校家庭クラブ員が、市内の一人暮らしのお年寄りを定期的に訪問し、そのお年寄りから「かわいい孫ができたみたい」と、大変に喜ばれています。今月号の「クローズ・アップ」では、白根高校・家庭クラブのボランティア活動を取り上げてみました。

地域社会とのつながりの中で行事を計画

同クラブ（笠原文恵会長・二百五十人）は、三年生の家政科クラスと、一・二年生の女子で構成されています。生徒会所属クラブではなく、家庭科目履習生の集まりで「研究・奉仕・社交」の三つを活動の基本に置いています。今年四月の役員会で「一円玉募金の奉仕活動から、もっと範囲を広げ、地域社会とのつながりの中で行事を計画していこう」と話し合い、まず、クラブ員のボランテ



一人暮らし老人への訪問は、主に土曜か日曜に。おばあちゃんと楽しそうに話もはずみます



「おばあちゃんに食べてもらおう」と、シチュー作りに奮戦中



9月10日に開かれた市社会福祉大会の席上、「家庭クラブのボランティア活動」を体験発表する3年生の小林直美さん

ィア活動に対する関心と参加の意志を知るための、調査を実施しました。その結果、多くの生徒が関心を持っていることがわかりました。このような手応えは、いままでの行事では見られなかったことだろうで、こうした意識の高い中で同クラブのボランティア活動がスタートしました。

住みよい社会を願いボランティア活動を

現在、ボランティア活動に参加しているクラブ員は五十一人。その活動のいくつかを紹介してみよう。

まず、一人暮らし老人との交流、福祉事務所から十一人のお年寄りを紹介してもらい、二・三人のグループで定期的に訪問しています。一回きりの訪問で終わるのではなく、より深い交流を求めて長く続けていくとのこと。

訪問を受けている一人、幸町に住む笠原コトさんは「よく来てくれますよ。やりたいことがたくさんある年頃なのに……。とてもうれしく思います。この前来てくれた時は、シチューを作ってくれたり、玄関の草取りまでしてくれました。かわいい孫ができたみたいですよ」と、話しています。

次に指人形劇。いま週一回集ま